

## 納得がいく選択を認定看護師が後押し

# 乳がん患者の意思決定支援

九州大病院別府病院の治療・研究

### からだを 読み解く

▶ 8 ◀



乳がん看護認定看護師  
阿部純子



総看護師長  
樋渡千佳

意思決定支援とは、文字通り「意思」を「決定」することを「助ける」という意味であり、単に医療者がいいと考える方に導くのではなく、「その人の声を聴き」「その人らしい選択」を支えることです。2024年度、当院にも乳がん看護分野の認定看護師が誕生し、患者さんにとっての伴走者となり、最適な支援体制の構築に努めています。乳がんの治療は、手術方法の選択や乳房再建の有無、薬物療法の種類など、選ぶべきことが多岐にわた

## 多職種との連携が不可欠

### 乳がん看護認定看護師の主な役割

#### 患者、家族の支援

- 乳がんの告知や治療に伴う不安・悩みに対する心理的なサポート
- 治療法の説明や意思決定の支援を通じて、患者が納得して選択できるよう後押し

#### 生活を支えるケアの提供

- 抗がん剤の副作用や術後の生活に関する相談、退院後の生活も見据えた支援

#### チーム医療

- 医師や他職種と連携し、患者にとって最適な医療が提供されるよう調整

#### 看護の質を向上

- 他の看護師への指導や勉強会を通じて、知識と技術の普及を推進

ります。患者さんは診断直後から多くの情報にさらされ、戸惑いや不安を抱えることが少なくありません。そうした中、意思決定支援は患者さんの納得感や治療への前向きな姿勢を引き出すために重要な看護の役割です。

乳がん看護認定看護師は、専門的知識と経験を生かし、特に手術前後の身体的支援や心理的支援、治療選択に関する情報提供を通じて患者さんが自分の価値

観を大切にし、納得がいく選択ができるようサポートします。医師の説明だけでは理解が難しい内容も、看護師が噛み砕いて説明することで、患者さんが自分の言葉で選択肢を整理できるようになります。

また、意思決定支援は看護師だけで完結するものではありません。医師や薬剤師、ソーシャルワーカーなど多職種との連携が不可欠です。

例えば、乳房再建手術を希望する患者さんは、がんの治療を考えながら、乳房再建ということも同時に考えなくてはなりません。そこで乳腺外科医や形成外科

医が連携し、その方に最適な方法で手術が受けられるようにします。手術前後は、看護師が心理的支援、セルフケア支援を行うことで、元の生活に戻るようしていきます。

治療と仕事の両立に悩む患者さんには、医療ソーシャルワーカーと協働しながら、個別性の高い支援を一緒に考えていきます。

私たちの施設では、定期的なカンファレンス(関係者会議)を通じて多職種が情報を共有し、患者さん一人一人に合わせた支援を行っています。ある患者さんは、乳がんと診断された直後に「先の見えない真っ暗な中にいた」と話していました。しかし、認定看護師との面談が病気と向き合うきっかけとなり、治療に挑むことができたそうです。

今後の課題としては、意思決定支援の時間確保や、情報共有の仕組みの強化が挙げられます。認定看護師として、患者さんやご家族が自らの意思で治療や生活を選択できるよう、チームの力で実現していきたいと考えています。困ったときは、どうか一人で抱え込まずにご相談ください。